

グラント宣教師夫妻来日の背景 1945

～ 仙台教会の歴史シリーズ その1～

小林孝男

1. 神道指令と宣教師派遣要請

1945年（昭和20）12月15日に、二つの出来事が起こりました。

一つは日本を占領した連合軍総司令部（GHQ）から、政府に対し神道指令が発せられたことです（「国家神道、神社神道ニ対スル政府ノ保証、支援、保全、監督並ニ弘布ノ廃止ニ関スル件」¹⁾）。明治維新後、神社神道を皇室神道のもとに再編成して作られたいわゆる国家神道は、天皇制支配や国家主義、軍国主義と結び付き、その思想的支柱となりました。信教の自由は国民から奪われ、国民総国家神道信者となるよう教育を通して強制されました。このシステムがGHQの神道指令により解体されます（このシステムを支持し、その有益性を政治的に利用したいと考える勢力は、今日においてもしっかりと生き続けていることを忘れてはならないでしょう）。

この日に起こったもう一つの出来事は、GHQ最高司令官ダグラス・マッカーサーが、アメリカ南部バプテスト教会会議議長宛に手紙を送ったことです²⁾。「日本人の精神生活は戦争で空白になっているから、キリスト教を日本人に布教するのは、今が絶好の機会である」と日本宣教を強く促す内容の手紙です。マッカーサーにとっての重大な課題の一つは日本の民主化でした。自らも聖公会の熱心な信徒であるマッカーサーは、民主主義の基盤はキリスト教にあると確信していました。そのためにアメリカの諸教派の教会を激励し、多くの宣教師を日本に派遣させ、彼らに対してGHQができる限りの便宜を図り、キリスト教が日本に広く宣教されることを支援したのです。その効果は次第に現れ、日本に派遣された宣教師の数は1947年（昭和22）には315名、1948年（昭和23）は707名、1949年（昭和24）は980名と増え、1951年（昭和26）までに来日した宣教師は、合計2,500名に及んだと言われています³⁾。

GHQ最高司令官がキリスト教に対してばかり特別に肩入れし支援することは、信教の自由の観点から問題があるのではないかという声は、内部からも挙がりました。しかし彼は、特定の宗教や信仰が弾圧されているのでない限り、信教の自由は保たれているのであり、占領軍がキリスト教の布教に対して色々な援助を与えるのは自由だ、との自説を曲げませんでした⁴⁾。

2. グラント宣教師夫妻の来日

1950年（昭和25）に来日し2年間の語学研修を経て仙台に着任、開拓伝道を行い、仙台教会設立（1955）を果たしたワース・グラント宣教師夫妻も、マッカーサーの呼びかけに応えた宣教師でした。パーム・ビーチ・ポスト紙の2005年12月21日のオンライン版には、ワース・グラント師の死亡広告記事⁵が掲載されていますが、その中に次のような一文があります。Responding to General MacArthur's call for "one thousand missionaries", Rev. Grant sailed with his family to Yokohama in 1950 as part of the largest group of U.S. civilians to return to Japan following World War II. (1,000人の宣教師の派遣を求めるマッカーサー総司令官の要請に応じ、グラント師は1950年（昭和25）に家族と共に海路横浜に向かいました。第二次世界大戦後、日本に戻る最も大人数のアメリカ市民たちが同船していました）。

このように歴史を振り返ると、マッカーサーの信教の自由に関するかなり強引な理解の仕方の影響と恩恵が、仙台教会誕生の背景にあったこととなります。他の宗教を弾圧していない限り、キリスト教を優遇しても信教の自由には反していないという論法は、あまりに手前味噌な解釈で、今日ではなかなか共感を得られないでしょう。

国家は強力な力を持ちます。教育を利用し国民を見事に国家神道信者に仕立て上げた実績もあります。国家神道ではなくキリスト教の信者にするのであれば赦されるという問題でも勿論ありません。国家はどのような宗教であれ、それを利用して人心を統一する誘惑に負けて、その絶大な権力を使用してはいけません。それは私たち一人一人が持つ基本的人権を踏みにじることになるからです。

教会は信教の自由をはじめ、人間の基本的人権を踏みにじろうとするいかなる企てに対しても、その間違いを正し、対抗して立ち向かう使命を与えられていることを忘れてはならないのです。

¹ 資料(1945/12/15_神道指令)

² 孫崎亨(2012)『戦後史の正体 1945-2012』創元社、72-73頁＝資料(2012/07/23_戦後史の正体)

³ 袖井林次郎(1974)『マッカーサーの二千年』中央公論社、221頁＝資料(1976/00/00_マッカーサーの二千年)

⁴ 同上 222頁

⁵ <https://www.legacy.com/us/obituaries/palmbeachpost/name/worth-grant-obituary?id=26343027> (閲覧日:2022/5/31)